清流

題字：芳野 充

令和２年10月30日
第46号

発行所　加来不動産㈱
発行者　加来　寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

礼儀は思いやりをあらわした行動

武道ではよく、「礼に始まり、礼に終わる」と言われ、礼儀を重要視しています。「二十の徳目」の三番目にも、「礼儀」があります。

素心学塾塾長の池田繁美先生が言われる「礼儀」とは、相手を敬い、不快さを与えず、心地よくさせる行為であり、何よりもその人を美しく見せる最良の作法です、と述べております。

「礼儀」といわれ頭にうかんだ人物が二人います。一人は藤井聡太棋聖。最年少でかつ、十代史上初の『二冠』を達成し、八段に昇段という偉業をのこしました。はにかんだ笑顔に淡々とした印象のある藤井棋聖ですが、対局した人からは、実力はもちろんのこと、彼は先輩を敬い、所作もふくめてとても礼儀正しい、との定評があります。

二人目は、米メジャーリーグ・エンゼルスの大谷翔平選手。チームメイトや監督、ファンはもちろん、記者にまでその実力をたたえられながらも、「気さくで礼儀正しいし、ていねい」という印象で人気を博しています。

この二人をみていると、実力があるから話題にのぼる、ということはもちろんですが、実力に「礼儀正しさ」が加わることで、まわりが自然と応援し、彼らを引き上げているようにみえます。つまり「礼儀」とは、相手やそれを見ているまわりの人に心地よさを与えるので、好感をもたれ、結果的にその人自身の品格も高まっていくのではないかと思います。

また、江戸時代の儒学者・貝原益軒は礼儀作法の大切さをこう記しています。「人の礼法あるは水の堤防あるが如し。水に堤防あれば氾濫の害なく、人に礼法あれば悪事生ぜず」。かみくだくと、「礼儀とは相手との摩擦の堤防になってくれるもの。川や海の堤防が氾濫をふせいでくれるように、相手に礼儀をもって接することで、ケンカや盗み、といった悪事がおきることはない」。ここでの礼儀は、相手に不快さを与えないことで、もめごとが減り、結果として良好な人間関係につながる、ということではないでしょうか。

さいきんはコロナ禍の影響で、自宅にいる時間がながくなっていることから、騒音トラブルが頻発しているとの記事を目にしました。社会生活は他人同士の関わり合いのなかで成り立っています。お互いが相手を敬い礼儀を意識することで、おおくの衝突ばふせげるのではないかと思います。礼儀は相手への思いやりをあらわした行動。また、自分の品格も高める作法である、と意識し礼儀を身につけていきたいと思います。

加来　寛